

恵 Keiju 寿

先端医療から福祉まで「生きる」を応援します



スペシャル対談

「医・薬の強固な連携で、
地域の健康と安全をけん引する」

株式会社クスリのアオキ取締役会長

青木 桂生
×
神野 正博

社会医療法人財団董仙会理事長

医・薬の強 地域の健 けん引する

今年 30 周年を迎え売上高 1,144 億円、従業員
場する北陸を代表する全国企業です。医と薬が
予防やコンサルティングに向けた動きも活発で

株式会社クスリのアオキ
取締役会長

青木 桂生

青木 桂生

● AOKI KEISEI

1976 年 6 月	有限会社青木二階堂薬局設立取締役
1981 年 11 月	有限会社青木二階堂薬局代表取締役
1985 年 1 月	株式会社クスリのアオキ設立代表取締役
2003 年 8 月	株式会社クスリのアオキ代表取締役会長
2010 年 8 月	株式会社クスリのアオキ取締役会長(現任)

高齢化社会は買い物難民を生む

神野●青木会長は、モータリゼーション時代を先読みし、街中から郊外にいち早く出店し、今はまた住宅近くに目を向けるというように、イノベーターとしての発想と先見性にはいつも驚かされます。会長とは、ヘルスアップセミナーを通じて親しくさせていただいておりますが、そもそもどういう経緯からセミナーをおはじめになったのですか？

青木●私どもは、30 年前に小さな薬局から現在のドラッグストアに変わって、はじめは企業としてやっていけるかどうか苦労の連続でした。なんとかやれるようになったころから、何か地域の役に立ちたい、地域のなかで提案型の業態をつくりたい気持ちがありました。たまたま私が昔、勤務していた病院で恵寿総合病院の前病院長である山本達先生と親交があり「地域のために何かやりましょう」と話していたのを思い出し、ヘルスアップセミナーを企画するのが最初です。今から 14 年ほど前です。以来、金沢医科大学病院や金沢大学附属病院の先生方にご協力いただいて、これまでに延べ 40 回近く開催しております。

富山は富山大学附属病院、福井は福井大学医学部附属病院の先生方に協力いただいております。

神野●会長が次はどんなことを考えておられるのか。私たちとコラボするとすればどんなことがあるか、実は楽しみにしています。

青木●今、いくつか考えておまして、一つは高齢化に対応するマーケットをどうつくるか。高齢化社会はある意味、買い物難民を生みます。当社はスーパーマーケットではありませんが、高齢者を含めて地域の方々が必要なものをどう品揃えするか常に考えています。少子化対策も重要です。調剤は医療費控除の対象になりますが、少子化に対する控除はありません。何か手立てを講ずる必要があると思います。医療と連携してぜひ進めたいのは、予防です。今後、医療は混合診療などいろいろ変わる可能性があります。エビデンス(科学的な根拠)に基づいた検証とか、きちんとしたデータに裏づけられたアドバイスができる栄養士、薬剤師による相談、コンサルティングはますます重要になります。先生方と連携して、私たちが地域の人たちの受診につながる入口になりたいと考えています。

固な連携で、 康と安全を

○
数 6,827人を数えるクスリのアオキは、東証一部に上
連携したヘルスアップセミナーは各地で好評を博し、
す。青木桂生会長と神野正博理事長が語り合いました。

社会医療法人財団董仙会
理事長

神野 正博

神野 正博

● KANNO MASAHIRO

1995年 特定医療法人財団董仙会(2008年11月より
社会医療法人財団に改称、2014年創立80周年)理事長
2011年 社会福祉法人徳充会理事長併任
専門は消化器外科
全日本病院協会副会長、七尾市医師会長、
石川県病院協会理事

予防やコンサルティングが強み

神野●アオキさんは、薬のほかに食料品や衛生用品も扱っておられます。私はこれも先見性の一つだと思います。おっしゃったように地域の高齢化が進んでいくと、薬の宅配とか、大人用の紙オムツとか、あるいは野菜や卵や納豆といった食品も一緒に配達してほしい要望はきっと出てくると思います。ただ薬は一か月分出せますけど、食品はそういうわけにはいきません。だから訪問看護師さんや介護職の方など、たとえば在宅のお年寄りを見守る人の力を借りる、逆にドラッグストアのスタッフが、薬や日用品を宅配する際に、在宅のお年寄りの健康状態を見て、異変があれば近くのクリニックや訪問看護ステーションに連絡をする。いってみれば、地域の「見守り総力戦」のなかに、ドラッグストアが入ってくる時代が、すぐそこまで来ている感じがします。

青木●地域コミュニティと、私たちのお客様がより良い関係をつくることは大事になっています。私たちが病院と連携して情報交換する場を提供したり、お客様にいか

神野●コンビニでも、最近は配食サービスや薬の販売、薬を取り寄せて宅配するところが出てきています。利用者からすればドラッグストアとどっちが安心か、になるわけです。

青木●そう思います。ドラッグストアとコンビニとスーパーマーケットの垣根、境目がますますなくなってきていますからね。

神野●その時に、私は会長がおっしゃった予防やコンサルティング機能があれば、強みになると思います。地域のお客様の顔を見て、健康相談やアドバイスをしたり、具合が悪ければ近くのクリニックを紹介できれば、クスリのアオキは強いですよ。病院や開業医の先生も、薬剤師さんや栄養士さんから患者さんがどんな薬を飲んでいて、栄養状態はどうかわかります。患者さんも安心して受診できます。

青木●予防に対して、先生方と対話ができる場をどうつくるか、今検討しているところです。県内に、ある程度の敷地をもった場所で、予防とか健康に関する相談ができるコミュニティをつくる計画が進んでいます。そこで先生方にご協力をいただいて、仮に簡易検査ができれば、先生の判断で受診のきっかけになります。そういう受診勧奨のきっかけになる店づくりを、今後考えていきたいと思っています。

パーソナルヘルスレコードを 持つ時代

神野●それはありますね。セルフメディケーションが進んで、自分で薬を買って飲む人も増えてきています。ただ一方で相談機能も欲しい。薬局で薬剤師さんに調剤してもらうときに、ドクターに相談できる機能があれば有難いわけです。薬剤師さんも、ドクターと連携することでモチベーションが上がる。ドクターも薬剤師さんのコンサルを受けた患者さんを紹介してもらうことで、基本情報がわかるので次の検査を決定しやすくなります。

青木●アメリカのミネソタ州にあるミニツクリニクに行ったことがあります。アメリカでは上級看護師といって、看護師に処方権を与えて、風邪薬など軽度な薬品を処方できるようになっています。そういう動きが日本でも出てくるかもしれませんね。

神野●ナース・プラクティショナー（NP）ですね。アメリカでは上級の看護師に一定レベルの診断や治療などを行うことが許されています。日本では「特定看護師(仮称)」といって、厚生労働省が導入を検討しています。どちらかといえば在宅医療向けですが、在宅で看護師しかいない時に、たとえば目の前の患者さんが脱水症状を起こして医師に連絡する時間がな

い場合、特定看護師が点滴を施す。じょくそうがひどい人に、合う薬を選んで塗ってあげる、風邪薬を出すなどの権限を与えてもいいのでは？という話が進んでいます。

青木●イギリスでは特定の薬剤師は処方権があります。アメリカは看護師の変化が起きている。日本も近いうちに大きな変化があるかもしれません。医療保険、介護保険を含めて日本は今後、財源をどうするかが大きな問題です。無駄な薬をどこまで減らすかも重要です。前々から感じていることですが、処方箋があれば、全国どこの調剤薬局へいっても薬を処方してもらえとか、自分のカードを見せれば、北海道や沖縄でも薬を受け取れる。そういう仕組みをつくるための情報の一元化も今後の課題だと思います。

神野●確かにいろんな仕組みを変えていかないと日本の医療費はもちません。今までは医療と医療の連携、医療と介護の連携でした。次の時代は、医療と介護と薬をうまく使って、管理して、自分の生活や生き方につなげるか。その最終形が重要になると思います。会長がおっしゃった予防やコンサルティング機能、セルフメディケーションを活かしながら、自分の健康管理データを持つ。病院のカルテとは違う、ある種のパーソナルヘルスレコードをつくる仕組みが必要じゃないかと思います。管理者は、あくまでも自分です。



講演者インタビュー

本年度の「クスリのアオキ ヘルスアップセミナー in 七尾」では、藤岡洋介医師、北川直孝医師が講演を行います。お二人に講演のポイントをお聞きしました。



家族みんなの医療センター
家庭医療科 科長

藤岡 洋介
ふじおか ようすけ

米国家庭医療学会 専門医
日本プライマリ・ケア連合学会
プライマリ・ケア認定医・指導医

講演 1 部

「よくある病気の専門医！ 家庭医のお話」

● 講演のポイント

「家庭医」ってどういう医者？

1. 「診療範囲の広さ」…

よくある病気であれば、0歳から100歳まで、男性でも女性でも診察します。すべての診療科と協力して、妊娠、出産、子供から老人まで、“家族みんなの健康”への取り組みの維持・発展に貢献していきたいと考えています。

2. 「予防活動にも力を」…

健診や予防接種といった予防活動にも力を入れており、「未病」のうちに防ぐという観点を強く持っています。

講演 2 部

「循環器医師が教えます！ 元気寿命の3カ条」

● 講演のポイント

元気寿命の3カ条、それは

1. 「血管を若々しく保つ」

2. 「動ける身体を保つ」

3. 「頭を元気に保つ」 です。

どれも大切ですが、とくに重要なのが血管です。血管の関係する病気と言えば、脳卒中や心筋梗塞がありますが、いずれも「血管の錆びつき」である「動脈硬化」が原因です。こういった病気になると、麻痺が残ったり、心臓の機能が低下して生活が制限され、「動ける身体を保つ」ことも「頭を元気に保つ」こともできなくなってしまいます。「元気寿命」のために、「血管を若々しく保つ」ことを心掛けたいですね。



恵寿ハート(心臓血管)センター
循環器内科 医長

北川 直孝
きたがわ なおたか

日本内科学会 認定医・指導医
日本循環器学会 循環器専門医
日本心血管インターベンション
治療学会 認定医
日本不整脈学会ICO/CRT研修終了

患者さんの痛みを早期にとってあげ、元の生活に戻ってもらう近道を探し健康寿命を延ばすことが整形外科・リウマチ科の役割です。

全国でも珍しい^{せきつい}脊椎圧迫骨折(せぼねの骨折)の新しい治療法である風船療法(正式名 バルーンカイフォプラスティ)を行っている恵寿金沢病院 横山光輝先生に、風船療法について、整形外科・リウマチ科を受診される患者さんへの思い、今後の抱負などを聞きました。



恵寿金沢病院 整形外科・リウマチ科
横山 光輝
よこやま みつてる

1990年金沢大学医学部卒業
金沢大学整形外科助手
富山県立中央病院整形外科医長
金沢医科大学整形外科講師などを歴任
恵寿金沢病院整形外科部長

【学会専門医】
日本整形外科学会認定整形外科専門医 リウマチ医
運動器リハビリテーション医
日本手外科学会認定 手外科専門医
日本体育協会認定 スポーツドクター

——脊椎圧迫骨折に対する風船(バルーン)療法について教えてください

横山●まず脊椎圧迫骨折とは、高齢者で骨粗しょう症(骨がもろくなる病気)の方によくみられる、せぼねの骨折です。せぼね(脊椎)が、押しつぶされるように変形してしまう骨折です。

従来は保存的療法と言って痛みが取れるまで1か月ほどベッド上で安静にさせていただくしか治療法がありませんでした。この骨折は高齢者に多いため、長い間ベッドに寝たままとなると足腰が弱くなってしまったり、認知症が進んでしまうといった合併症が問題となります。このような患者さんに対して、なんとか早く社会復帰していただきたいと思っていました。

そんな時に、手術によってすぐに痛みが軽減でき、生活の質をあげることが期待できる Balloon Kyphoplasty【バルーン カイフォプラスティ】(略して「BKP」と呼ばれて

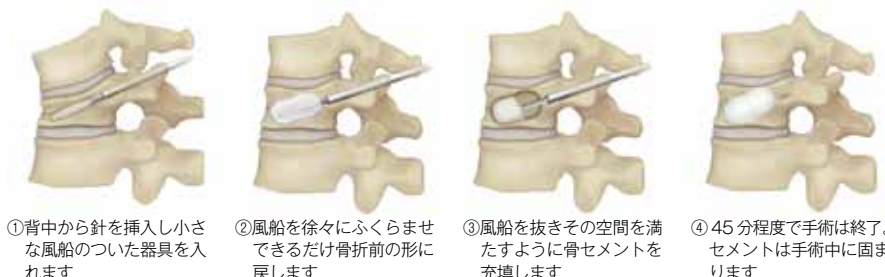
います)と呼ばれる新しい治療法を知りました。2011年1月より公的保険が適用されるようになり、当院でも2011年より行っています。

この手術は脊椎圧迫骨折によってつぶれてしまったせぼねを、もとの形に近づけ痛みをやわらげる手術です。

手術は全身麻酔で行い、まず背中側から折れたせぼねの両脇に1cm程度の小さな穴を開け、小さな風船(バルーン)のついた器具を入れます。次につぶれたせぼねの中で、風船をふくらませもとの形に近づけます。風船でふくらませた部分に医療用のセメント(骨セメント)を入れ固めます。

この手術の特長は、約45分間という短時間で手術が終わり、手術直後に痛みの軽減が行えることです。手術によって今まで痛みで動けなかった患者さんが歩けるようになり、生活の質も向上します。入院期間も短縮できる利点があります。

手術の方法



手術後の切開跡



—対象となる患者さんはどんな方ですか？

横山●脊椎圧迫骨折で2～3週間の十分な保存的治療によっても、背中が痛みが取れない方を対象としています。全身の健康状態等によっては、手術を安全かつ有効に行なうことができないために手術の対象とならない場合もあります。また1ヶ月以上前に骨折した患者さんで骨がくっつかない（偽関節）状態になっている患者さんも対象になります。このような方はすぐに手術を行います。

—この手術は北陸では珍しいとお聞きしました。患者さんの人数や外科手術の実施件数はどれくらいですか？

横山●2011年より22例の実績があります。年々実施件数は増えていますし、この数は高齢化によって今後もさらに増えていくと思います。もちろん恵寿総合病院と連携し、能登地域の方々に手術の対象となる方にも受けてもらえます。しかしこの手術は、脊椎脊髄病医であり手術のトレーニングを受けた医師しかできないことになっているため、あまり全国的に広がっていないことが現状です。恵寿金沢病院では、脊椎脊髄病の専門医と密に連携を取りこの手術を行っています。

—患者さんがこの手術を受ける際の注意点があれば教えてください

横山●全身麻酔をかけることができる方であればこの手術は可能です。全身状態が良ければ大きな出血をする手術ではありませんので、積極的にこの手術をおすすめしています。当院では最高91歳の方がこの手術を受けて、現在は歩行もできるようになっています。しかし手術を受けたからといって治療が終わるわけではありません。もともと骨粗しょう症のために、せぼねの骨折が起きたわけですから、

骨を丈夫にする（骨密度をあげる）治療を継続しなければなりません。具体的にはPTH製剤（商品名 フォルテオ、テリボン）という注射が必要になります。

—患者さんの診療で大切にされていることがあればお聞かせください

横山●整形外科・リウマチ科を受診される患者さんで一番困っている事は「痛み」です。その痛みをとって元の生活に戻りたいと思っています。元の生活に戻っていただく近道はどうしたらよいかを考えながら診療を行っています。そして、少しでも患者さんの生活の質を上げることを考えています。

—患者さんの反応はいかがでしょう？

横山●満足されています。脊椎圧迫骨折はもともと一般的な骨折でしたが、ベッド上で安静にしておくしか治療がありませんでした。しかし早期にベッドを離れていただき、体を動かすことによって認知症の進行を遅らせることもできますし、早く歩くことによって健康寿命をのばすためにこのような治療が望ましいと思います。

当院の強みとしてはX線透視装置が2台ありますので、手術時に側面・正面から同時に透視しながらで正確に手術を実施することができます。これくらいの規模の病院でX線透視装置が2台あるのは稀だと思います。

—今後の抱負をお聞かせください

横山●恵寿金沢病院と名称が変わり、これをきっかけとして石川県、金沢の中心部にあるこの病院が、地域住民の方々に十分認知していただき、地域の医療の中心となり、患者さんに必要とされる病院となれるように頑張っていきたいと思っています。



整形外科・リウマチ科 土屋雅信医師(左から2番目)、外来スタッフとともに



ななお 県内初の
「不妊症看護」
認定看護師として

前浜 静香

MAEHAMA SHIZUKA
【恵寿総合病院 看護師長・助産師】

助産師として約30年間、多くの新しい命の誕生に立ち会ってきましたが、仕事が大変だと思ったことは一度もありません。出産するお母さんの力、生まれてくる赤ちゃんの力などが私にエネルギーを与えてくれるからだだと思います。楽しみながら仕事を続けてきました。

看護人生をかけて

これまでは赤ちゃんの「産声」に力を入れて仕事をしてきましたが、残りの看護人生を「不妊の方のために力を注ぎたい」と考えるようになりました。不妊に悩む方の気持ちに寄り添い、患者さんの意思決定支援をしていきたいです。また、思春期を迎える方にも、講演などを通じて、感染症のリスクなど、将来不妊にならないような身体づくりの手助けができればと考えています。



【大切な仕事道具】
私の「手」です。赤ちゃんを取りあげたり、お母さんのお乳に触れるので、温かく、柔らかかな手であるよう気をつけています。



【前浜さんの職場】明るく楽しい仲間たちと仕事をしています！

認定看護師とは…

特定分野の熟練した看護技術と知識を磨いた者が取得できるもので、日本看護協会が認定した21分野の資格があります。前浜さんは今年7月、県内では初めて「不妊症看護」分野の認定看護師に合格しました。



ななお ひとりひとりに
あったケアを

吉田 美恵子

YOSHIDA MIEKO
【介護老人保健施設和光苑 介護主任】

介護の現場はチームでのケアが重要なので、多職種と連携、協働して、利用者ひとりひとりにあったケアができるよう努めています。また利用者の方には、自分から声をかけるようにしているほか、常に笑顔で接することを心がけています。

けいじゅ5(ファイブ)での活動について

けいじゅ5(ファイブ)とは、介護職5名で結成したグループ名です。結成のきっかけは、高齢者が学びで元気になる、という新しいタイプのデイサービス「おとなの学校」の講演を聞いたことです。そこではスタッフの方が楽しそうに活動を行っていました。けいじゅ5(ファイブ)の活動を通して、高齢者のみならず、介護職そのものに対する活力になればと考えています。



【大切な仕事道具】
最近導入されたスタッフ間の「申し送りシステム」に、このスマートフォンを活用しています。欠かせない仕事道具です。



【吉田さんの職場】仕事をするうえで一番大切なのはチームワーク！気の合う仲間たちです。

けいじゅ5(ファイブ)とは…

高齢者が「元気」になれるよう、介護職5名のグループを結成しました。いろんなところへ出向いて、昔懐かしい歌と一緒に歌ったり、座ったままでできる運動などを行っています。



かなざわ

患者さんの 思いを 組み込みたい

荒木 千保子

ARAKI CHIHOKO
【恵寿金沢病院 地域連携
・医療福祉相談課課長(社会福祉士)】

社会福祉士として患者さんから医療費の相談、介護保険の相談、病気に関連して発生する心配事などの相談に応じています。医療現場では治療が優先され、医療側の意見が通りやすい傾向になると思うので、福祉職としていかに患者さんの思いを組み込んでいくかを日々意識しています。

身近な存在を目指して

また地域連携の業務として、転院の受け入れなどの調整、紹介患者さんの連絡調整を行っています。金沢に勤務地が変わり、まだまだわからないことばかりですが、地域住民の皆さんや地域の医療機関にとって当院が利用しやすい、身近な存在になれるよう目指していきたいと思います。



【大切な仕事道具】
連携医療機関を訪問するときにも、必要な書類などを入れている愛着のあるかばんです。



【荒木さんの職場】7月から恵寿金沢病院になり、今村さん(写真左)と社会福祉士2名体制で働いています。

社会福祉士とは…

精神的・肉体的なハンディキャップなどにより、社会の中で孤立したり、日常生活を送るのが困難な人々に対し、本人がそれぞれの課題を解決し、よりよい生活が実現できるように、専門知識と技術をもって援助していく仕事です。



ななお

きれいな 病院にしたい

大浜 勇介

OHAMA YUSUKE
【大成有楽不動産(株)
恵寿総合病院管理事務所 営繕係】

本館横の海岸線清掃など病院の外の清掃、病院と各施設の可燃ごみの収集・運搬、草刈り、害虫の消毒駆除などを行っています。患者さんや家族の方々に、いつもきれいにしている病院だと思っただけのように心がけて仕事をしています。病院の職員や来院された方に「ご苦労様」「いつもきれいにしてくれてありがとう」と言われると、とても励みになりもっと頑張ろうと思います。

設備管理ができるように

今は営繕担当として業務していますが、今後は職場仲間と同じ資格(ボイラー技士・電気工事士・消防設備士)を取得して設備管理もできるようにしたいと考えています。



【大切な仕事道具】
このリヤカーは、ごみ・草・枝など運搬作業をする私の大切なマイカーです。



【大浜さんの職場】営繕作業(海岸線清掃・ごみ運搬)を忙しい時に手伝ってくれる大切な仲間です。

大成有楽不動産(株)とは…

恵寿総合病院内に事務所を配置し、24時間体制で院内の設備機器の保守管理、設備の修理や交換を行っている会社です。

Profile

～あなたには何でも相談できる家庭医(かかりつけ医)が

恵寿グループ連携医療機関紹介【能登編】



かじ内科クリニック

内科・外科・消化器科

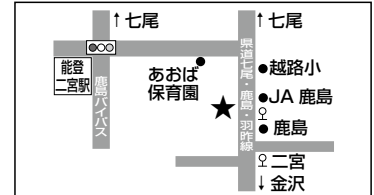
鍛治武和先生

かじ・たけかず

1993年3月 島根医科大学医学部卒業
2006年 恵寿総合病院健康管理センター勤務等を経て
2007年5月 かじ内科クリニック開院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30～ 12:00	○	○	○	○	○	○	/
14:00～ 18:00	○	○	/	○	○	△	/

休診日: 日・祝、水曜AMのみ 土曜16:00まで



〒929-1811
石川県鹿島郡中能登町二宮ホ210-1
TEL 0767-76-0002

能登編はかじ内科クリニック・鍛治武和先生にお話を伺いました。

先生は負担の少ない鼻からの
内視鏡検査(経鼻内視鏡)に力を入れているほか、
和やかで親しみやすいクリニック作りもされています。

● 医師を目指されたきっかけは?

祖父の代からこの地で開業しており、院長である父の姿を見て育ったので自然と医師の道を選びました。レールに乗ったつもりはないのですが、他の職業を考えたこともなかったです。小学生の頃から周りの友達に「自分は医者になるんだ」と言っていたと思います。

● 先生の専門領域は?

消化器内視鏡専門医です。消化器内科が専門で、開業前2006年までは恵寿総合病院では健康管理センターで勤務していました。

● クリニックの特徴を教えてください

負担の少ない経鼻内視鏡(鼻から)ができるクリニックです。1日1人限定、要予約でやっています。鼻からの内視鏡は麻酔や鎮静剤を必要とせず負担が少ないのが特徴です。どうしても口からの内視鏡は苦しいというイメージがあり、受けなければいけない人が受けていない現実がありますので、そういう方にぜひ経鼻内視鏡を受けてもらいたいです。

また、当院は、患者さんに安全と信頼を感じていただける風通しのよいクリニックを目指して、スタッフ一同日々努力をしております。

講師を招いての接遇研修や、院内での定期的なミーティングを行い、スタッフ1人1人が自らを振り返りながら成長していける職場づくりに努めています。和やかで親しみやすいスタッフが当院の自慢です。

● 地域連携についてどのようにお考えですか

国の政策で病診連携が進められていますが、やはりクリニックが総合診療科的な役割を担い、本当に必要な人を、専門医のいる総合病院に紹介するのが理想だと思います。この地域は幸いにも恵寿総合病院を含めた大きな病院が近くにあり、病診連



携ということでは理想的な環境だと思います。また、連携病院の勉強会に参加して、先生方を知ることで顔の見える連携を大事にしています。恵寿総合病院はコールセンターを持っているのでここに紹介してよいかわかりやすいです。

● 先生独自の取り組みがありましたら教えてください

内視鏡・生活習慣病はもちろん、院長は外科医ですし、一般的なケガや整形外科的疾患などもこのクリニックで完結できるように日々邁進しています。また近年では在宅医療も求められ、当院でも訪問診療を行っています。看取りも含め難しい問題も多々ありますが、一番大切な事は患者さんとご家族との信頼関係を築いていくことだと思います。まだまだ未熟ではありますが、ケアマネジャー、訪問看護師、各施設との連携の輪に入り日々経験を積んでおります。

● 地域の皆さんへのメッセージがありましたら教えてください

この地で3代やってきているので、昔から知っている方も多いですが、風邪でもケガでもちょっとした心配なことがあれば来ていただければと思います。必要なら大きな病院に紹介いたしますし、ひと通りの診療は行える環境にありますのでお気軽に相談してください。



柴山クリニック

内科・循環器科

院長
柴山真介先生

しばやま・しんすけ

1984年3月 日本大学医学部卒業
1984年4月 金沢大学第二内科入局
1990年 石川県立中央病院循環器内科勤務等を経て
1995年5月 柴山クリニック開院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~ 12:30	○	○	○	○	○	○	/
15:00~ 18:00	○	○	/	○	○	/	/



〒920-0901
石川県金沢市彦三町1丁目7-34
TEL 076-232-6377

金沢編では柴山クリニック・柴山先生にお話を伺いました。
先生は患者さんだけでなく家族の皆さんを診る
地域の家庭医を目指して活動されています。

● 医師を目指されたきっかけは?

母方の祖父がこの地で開業して、父が跡を継ぎました。
私が大学生の時に父は他界いたしまして15年ほどブランク
がありました。私も医師となりこちらで開業しました。も
ともと医療に興味があったわけですが、周りに医師が多かつ
たため自然とそうなったと思います。

● 先生の専門領域は?

循環器内科です。金沢大学第二内科で循環器の研究室に
所属していました。疾患では高血圧や心臓病を専門として
います。

● クリニックの特徴を教えてください

風邪など内科一般全部を診療しています。特に循環器疾
患に力を入れています。心臓の超音波も導入していますが、
クリニックでできる検査は限られており、CTやMRI、心臓
血管造影など必要があれば大きな病院の橋渡しをしていま
す。また在宅支援診療所として往診など在宅医療も行っ
ています。



● 地域連携についてどのようにお考えですか

この地域は近くに大きな病院が多く、病診連携をとりや
すい環境にあります。患者さんの状態を見て総合病院の専
門医と連携を取り、適切な医療を受けられるように紹介し
ています。恵寿金沢病院の先生方にも大変お世話になって
おります。

● 先生独自の取り組みがありましたら教えてください

心臓病の患者さんには心臓超音波検査やホルター心電図
など、当院でできる検査は当院で行い、心筋梗塞後の患者
さんのフォローも行っています。また向かいの特別養護老
人ホームに入所されている方も診療していますので高齢者
医療にも力を入れています。高齢者の方は複数の病気を持っ
ておられる方が多いので、総合的に診療を行っています。

患者さんだけでなく、患者さんのご家族のことも気軽に
相談していただけるようなクリニックを目指しています。

地域の皆さまが安心してかかることができる「かかりつ
け医」「家庭医」として相談窓口となるように、若い方から
お年寄りまで気軽に健康相談していただければと思います。



基本理念

人命尊重、心身の健康第一の立場に立ち、職員が一体となって
地域住民の健康維持(予防、診療、リハビリテーション、介護)に努めると共に、
地域の中核医療施設として、社会、経済、文化の発展向上に貢献します。

信頼の心

私達は、患者・利用者の皆様の権利を尊重し、
信頼される質の高い医療により、地域に貢献します。

思いやりの心

私達は、思いやりのある病院・施設づくりに努めます。

健全な経営

私達は、収支構造の安定した病院・施設を維持します。

職員の幸せ

私達は、董仙会の発展を通じ、職員の幸せを築きます。



社会医療法人財団 董仙会
(けいじゅヘルスケアシステム)

恵寿総合病院